

青梅市立第三中学校 令和8年度 1学年〔歴史〕 年間指導計画案
教科書 帝国書院刊『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』

評価方法 (通年)	[知識・技能] ・小テスト ・定期テスト ・資料を活用した作業の取り組み				
	[思考・判断・表現] ・課題ワークシート ・発言 ・定期テスト ・ノート(思考の記録) ・提出物(レポート)				
[主体的に学習に取り組む態度] ・発言 ・定期テスト ・ワークシートや作業の取り組み ・提出物(レポート) ・振り返りシート					
学期	時数	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	目標	評価規準の具体例 ①=知識・技能 ②=思考・判断・表現 ③=主体的に学習に取り組む態度
第1章 歴史のとらえ方と調べ方 第1節 歴史の流れと時代区分				(1)中学校の歴史学習の導入として、小学校で学習した内容をもとに課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解させ、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身につけさせる。 (2)小学校での学習を踏まえて、歴史上の人物や文化財、出来事などと時代区分の関わりなどについて考察し、適切に表現させる。	①年代の表し方や時代区分の意味や意義について基本的な内容を理解している。 ①資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身につけている。 ②時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し、表現している。 ③地域によって時代区分が異なることを理解し、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる多様性や背景を主体的に追究しようとしている。
1年2学期	1	2 3	歴史をたどろう ◎この絵は何だろう？	(1)絵を活用して、小学校で学んだ内容をもとに、歴史を大きく変えた人物や出来事を選択し、その理由を説明できる。	①資料(絵)から知っていることを想起し、歴史を大きく変えた人物や事象を選択、理解している。 ②歴史を大きく変えた人物や事象などを適切に取り上げ、関連づけて考察し、根拠を含めて表現している。 ③歴史を大きく変えた人物や事象などについて関心を持ち、さらに知りたいことやよく分からないことを整理し、これからの学習につなげようとしている。
1年2学期	2	3 4 7	1 年代の表し方と時代区分 ◎年代の表し方や時代区分にはどんな種類があるのだろうか。	(1)西暦、世紀、元号それぞれの意味と使い方を理解できる。 (2)政治の中心地による時代区分や文化の特徴から名づけられた時代区分があることを理解し、時代を区分できる。	①さまざまな年代の表し方や時代区分について理解し、西暦、世紀、元号などを使って適切に説明している。 ①時代区分は解釈により異なることを理解し、資料(絵)に描かれた人物や出来事を事例として時代を区分する技能を身につけている。 ②歴史を大きく変えた人物や出来事などを適切に取り上げ、時代区分との関わりについて考察し、「歴史をたどろう」の道の上に、適切に時代区分を書き込んでいる。 ③西暦、世紀、元号などの年代の表し方や、さまざまな時代区分について、分かったことを整理し、今後の学習へのつながりを見いだそうとしている。
第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた				(1)身近な地域のなかで受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で地域の歴史を調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身につけさせる。 (2)博物館や郷土資料館などの利用や地域の人々の協力も考慮し、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、適切に表現させる。	①生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身につけている。 ②比較や関連、時代的背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心を持ち、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
時期不定期		8 9	1 歴史の謎を探ろう	(1)地域の歴史に触れ、調べてみたい事柄を探し、グループで話し合うなどして調べる課題を決定できる。	①図書館、博物館・資料館、インターネットなどから適切に情報を集める技能を身につけている。 ②これまでに学習した人物、身近な人の話や言い伝え、地域の気になる建物・風景、遺跡・遺物、行事・風習などから、話し合いをもとに調べるテーマを適切に設定している。 ③身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に対する関心を高め、課題を追究しようとしている。
時期不定期	8 時間分の 時間を 想定	10 11	2 資料をよく見てヒントを探そう	(1)教科書や地域の副読本など、身近な資料から基本的な情報を集め、調べる視点を明確にして、いくつかの仮説を立てることができる。 (2)野外調査や聞き取り調査を通して新たな情報を収集し、整理できる。	①適切な地図・年表のつくり方や、野外調査・聞き取り調査のしかたを身につけている。 ①身近な地域の歴史や受け継がれてきた伝統・文化に関するさまざまな資料を収集し、予想に関連のある情報を適切に読み取ったり、事実と事実でないことを区別したりするなど、記録を適切に整理している。 ②野外調査や聞き取り調査を通して、分からなかったことや新たな疑問などを日本の歴史の大きな流れと結びつけて考察し、自分の予想を根拠をもとに適切に表現している。
時期不定期		12 13	3 謎解きの答えをまとめよう	(1)調べたり考えたりしたことを整理し、まとめの報告書(レポートやスライド)を作成できる。 (2)調べたことを発表し、調査全体を振り返り、改善できる点や工夫できる点を探して、今後の調査活動に生かすことができる。	①適切なレポートやスライドのまとめ方、発表のしかたを身につけている。 ①調査を通して分かった事柄を適切な項目を立てて整理し、根拠となる資料を年表、地図、写真・イラスト、関係図・流れ図などを用いて表現している。 ②聞く人や見る人をひきつける発表を工夫し、相手と自分の意見の違いや共通点をもとに意欲的に意見交換をして、自分の考えを深めている。 ③調査活動全体を振り返り、調査の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。

<p>第2章 古代 古代国家の成立と東アジア</p> <p>■章の問い■ 国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか。</p>			<p>(1)次のような知識を身につけることができる。 (ア)世界の古代文明や宗教のおこり、(イ)日本列島における国家形成、(ウ)律令国家の形成、(エ)古代の文化と東アジアとの関わり</p> <p>(2)次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 (ア)古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の(ア)から(エ)までについて古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ)古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。</p>	<p>①世界の古代文明や宗教のおこりをもとに、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ①日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、ヤマト王権による統一の様子と東アジアとの関わりなどをもとに、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解している。 ①律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などをもとに、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ①仏教の伝来とその影響、かな文字の成立などをもとに、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 ②古代文明や宗教がおこった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治、文化の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③古代までの日本について、よりよい社会の実現を視野に「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という「章の問い」を主体的に追究しようとしている。</p>	
<p>第1節 人類の登場から文明の発生へ</p> <p>◇節の問い◇ 世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか。</p>			<p>(1)古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目して文明や宗教の特徴を比較して考察するとともに、世界各地で人々が農耕や牧畜を基盤に築いた諸文明には、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展、都市や巨大建造物、身分の分化などに共通する特色があることを理解できる。 (2)ギリシャ・ローマ文明の政治制度について、現代につながる面と現代の民主主義とは異なる面の両面を踏まえて理解できる。</p>	<p>①古代文明の特色を、巨大な遺跡と文字や暦の発達に着目して読み取るとともに、宗教が生まれてきた背景を古代文明の発達との関わりから理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②古代文明や宗教が起こった場所や環境に着目し、文明や宗教の特色を比較し、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③古代文明や宗教のおこりについて、「章の問い」と関連づけながら「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。</p>	
1年2学期	4	15	<p>章の導入</p> <p>■章の問い■ 国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか。</p>	<p>(1)これから学習する古代(先史時代～平安時代)がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。</p>	<p>①小学校での学習などをもとに、古代に該当する時代を把握し、小学校で学習した歴史上の人物や出来事を想起できている。 ②小学校での学習などをもとに、古代の社会の特色について自分なりの考えをまとめ、表現している。 ③「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という「章の問い」に対する学習の見通しを立て、学習を通して古代の特色を明らかにしようとしている。</p>
1年2学期	5	16 17	<p>1 人類がたどった進化</p> <p>◎人類は進化の過程で、どのように生活を変化させてきたのだろうか。</p>	<p>(1)人類がどのように進化してきたのか、環境の変化との関わりから考察し、説明できる。 (2)日本列島に人類が住み始めた経緯や、旧石器時代と新石器時代の違いを理解できる。</p>	<p>①壁画や道具の変化から、人類の進化に関わる情報を読み取っている。 ①旧石器時代と新石器時代の道具や生活のしかたの違いを理解している。 ②本時の学習課題について、環境の変化への対応、道具の使用や火、言葉などの発達に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という「節の問い」について、見通しをもって取り組もうとしている。</p>
1年2学期	6	18 19	<p>2 世界各地で生まれる文明</p> <p>◎古代文明はどのような特徴があったのだろうか。</p>	<p>(1)環境の変化の影響を受け、牧畜や農耕が始まり、文明が発生したことを理解できる。 (2)古代文明に共通する特色から、文明が生まれた条件を考察し、説明できる。</p>	<p>①牧畜や農耕の始まりが、古代文明の誕生につながっていった経緯を理解している。 ①メソポタミア、エジプト、インダスの文明の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、古代文明が誕生した地域に共通する条件に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③ナイル川の氾濫が文明の発達に与えた影響について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。</p>
1年2学期	7	20 21	<p>3 東アジアの文明の広がり</p> <p>◎古代の中国は、どのように国を治めていったのだろうか。</p>	<p>(1)中国文明の特色を、ほかの古代文明との共通点から理解できる。 (2)秦と漢の政治のしくみや特色を、広大な領土を支配したこととの関わりから考察できる。</p>	<p>①中国文明の特色を、ほかの古代文明の特色との共通点から理解している。 ②本時の学習課題について、秦や漢が広大な領土を支配した政治のしくみに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。</p>
1年2学期	8	22 23	<p>4 ギリシャとローマの政治と文明</p> <p>◎古代のギリシャ、ローマではどのような政治が行われたのだろうか。</p>	<p>(1)古代のギリシャとローマの政治と文明の特色を理解できる。 (2)古代のギリシャやローマで行われた民主政や共和政が、現代の民主政治と異なっていることを考察できる。</p>	<p>①ギリシャとローマの政治と文明の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、ギリシャやローマの民主政治と現在の民主政治との違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。</p>
1年2学期	9	24 25	<p>5 仏教・キリスト教・イスラム教の誕生</p> <p>◎仏教・キリスト教・イスラム教の教えには、それぞれどのような特色があるのだろうか。</p> <p>◇節の問いを振り返ろう◇ 世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか。</p>	<p>(1)仏教・キリスト教・イスラム教の特色を理解できる。 (2)三つの宗教が、世界各地に広まった理由を考察し、説明できる。</p>	<p>①仏教・キリスト教・イスラム教が誕生した時期と、それぞれの教えの特色を理解している。 ①仏教・キリスト教・イスラム教が広まった地域を理解している。 ②本時の学習課題について、宗教が誕生した背景に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ②「世界各地の文明は、どのように成立し、発展したのだろうか」という「節の問い」について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「節の問い」を振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。</p>
<p>第2節 東アジアのなかの倭(日本)</p> <p>◇節の問い◇ 日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか。</p>			<p>(1)日本列島において狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことや、自然崇拜や農耕儀礼などに基づく信仰が後の時代にもつながっていることを理解できる。 (2)ヤマト王権の勢力の広がりについて、古墳の大きさやその分布からとらえるとともに、東アジアとの関わりについては、大陸から移住してきた人々が日本の社会や文化に果たした役割に気づくことができる。</p>	<p>①日本列島における農耕の始まりと人々の生活の変化、ヤマト王権の勢力の拡大などをもとに、倭(日本)は東アジアの文明の影響を受けながら国家を形成していったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②農耕の広まりや生産技術の発展に渡来人が果たした役割に着目し、人々の生活や社会に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③日本列島における国家形成について、「章の問い」と関連づけながら「日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。</p>	
1年2学期	10	26 27	<p>タイムトラベル① 縄文時代を眺めてみよう 紀元前25～前20世紀ごろのある場面 タイムトラベル② 弥生時代を眺めてみよう 紀元2～3世紀ごろのある場面</p>	<p>(1)縄文時代と弥生時代の集落を描いた想像図を比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があるかを読み取り、各時代の特色を考え、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。</p>	<p>①小学校の学習を踏まえて、「タイムトラベル」の想像図から、縄文時代や弥生時代の建物の特色や食料調達の方法などを読み取っている。 ②縄文時代と弥生時代との共通点や違いに着目し、「タイムトラベル」の想像図に表現している事象を相互に関連づけ、時代が変化している様子を多面的・多角的に考察し、「問い」を立てて設定している。 ③「タイムトラベル」の想像図から縄文時代や弥生時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。</p>

1年1学期	11	28 29	1 縄文から弥生への変化 ◎縄文・弥生時代の日本列島の人々は、それぞれどのような生活をしていただろうか。	(1)縄文時代と弥生時代の人々の生活の特色を理解できる。 (2)弥生時代の人々の生活や道具が大きく変化した理由を考察し、説明できる。	①縄文時代と弥生時代の生活のしかたや道具の特色を理解している。 ①稲作の広まりが、人々の生活や社会に与えた影響を理解している。 ②本時の学習課題について、人々の生活や道具の違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1年2学期	12	30 31	2 ムラがまとまりクニへ ◎日本列島のクニはどのようにまとまっていったのだろうか。	(1)本文と史料にある中国の歴史書を読み解き、当時の日本国内では小国が分立して争っていたことが理解できる。 (2)中国の漢から倭の奴国に金印が授受されたことの意味を考察し、説明できる。	①本文やデジタル教科書にある本文やデジタル教科書にある中国の歴史書から、当時の日本の様子を読み取っている。 ②本時の学習課題について、中国との結びつきに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1年2学期	13	32 33	3 鉄から見えるヤマト王権 ◎ヤマト王権はどのようにして各地の豪族を従えていったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 日本列島ではどのようにクニができ、勢力を拡大したのだろうか。	(1)3世紀～6世紀ごろの倭国の政治状況と外交関係の特色を理解できる。 (2)ヤマト政権が勢力を拡大していった経緯を考察し、説明できる。	①ヤマト王権と豪族の関係を、古墳の分布や鉄の広まりなどから読み取ることができる。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島との結びつきや国内の遺跡に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第3節 中国にならった国家づくり ◇節の問い◇ なぜ、日本の古代国家は、中国にならった国づくりを行ったのだろうか。			(1)聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を大きくとらえ、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられたことを理解できる。 (2)大陸からもたらされた仏教が、日本の文化のさまざまな面に影響を及ぼしたことに気づき、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解できる。	①律令国家の確立に至るまでの過程をもとに、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ①仏教の伝来とその影響などをもとに、国際的な要素をもった文化が栄えたことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②東アジアとの接触や交流に伴う日本の政治や文化の変化に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③律令国家の形成や古代の文化と東アジアとのかかわりについて、「章の問い」と関連づけながら「なぜ、日本の古代国家は、中国にならった国づくりを行ったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。	
1年2学期	14	36 37	タイムトラベル③ 奈良時代を眺めてみよう 8世紀ごろのある場面	(1)奈良時代の東海地方のある地域を描いた想像図を見て、縄文時代や弥生時代と比べて、どのような点の変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）として設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、「タイムトラベル」の想像図から、奈良時代の建築の様子や人々の役割などを読み取っている。 ②弥生時代と奈良時代との違いに着目し、「タイムトラベル」の想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、奈良時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「タイムトラベル」の想像図から奈良時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。
1年2学期	15	38 39	1 ヤマト王権と仏教伝来 ◎蘇我氏や聖徳太子は、どのような国をつくらうとしたのだろうか。	(1)蘇我氏や聖徳太子の改革の特色とそのねらいを理解し、仏教を重視した理由を考察できる。 (2)蘇我氏や聖徳太子が改革を行った理由を中国との関係から考察し、説明できる。	①蘇我氏や聖徳太子の改革の特色とそのねらいを理解している。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島との結びつきや仏教と政治の結びつきに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③法隆寺にみられる高度な技術について、よりよい社会の実現を視野に、関心を高めている。
1年2学期	16	40 41	2 揺れ動くアジアと倭国 ◎倭国(日本)はどのような改革を進めたのだろうか。	(1)大宝律令の制定により、中央集権国家のしくみがつくられたことを理解できる。 (2)白村江の戦いの敗北後、天皇を中心とする国づくりが行われた理由を考察し、説明できる。	①大宝律令や都が唐を手本にしたものであることを理解している。 ②本時の学習課題について、中国や朝鮮半島の情勢に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1年2学期	17	42 43	3 律令国家での暮らし ◎奈良時代の土地と税の制度にはどのような特色があったのだろうか。	(1)班田収授法のしくみを理解し、律令体制の下で農民は重い負担を強いられていたことを理解できる。 (2)墾田永年私財法が出された理由と、社会に与えた影響を考察し、説明できる。	①都が平城京に移された理由を理解している。 ①班田収授法のしくみを理解し、農民の負担が大きかったことを理解している。 ②本時の学習課題について、墾田永年私財法が制定された理由と社会に与えた影響に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1年2学期	18 19	44 49	4 大陸の影響を受けた天平文化 ◎奈良時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、日本の古代国家は、中国にならった国づくりを行ったのだろうか。	(1)奈良時代には、大陸の影響を受けた国際的な文化が栄えたことを理解できる。 (2)大仏造立など、仏教に関わる大規模な事業が行われた理由を考察し、説明できる。	①遣唐使を通して、唐の政治のしくみや進んだ文化が伝えられ、国際色豊かな天平文化が栄えたことを理解している。 ②本時の学習課題について、大陸との関わりと仏教の展開に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③古代の疫病の流行と人々の対応や、自然災害と神話との関係について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
1年2学期	20	50 51	世界とのつながりを考えよう イラスト編① 唐の都 長安	(1)奈良時代の遣唐使の派遣、平城京の建設、天平文化などに関連づけながら、当時の日本と中国とのつながりについて多面的・多角的に考察し、近代までの各時代の特色を、アジアを中心とした世界との関わりの中で理解することの大切さに気づく。	①これまでの学習を踏まえ、長安の想像図から、遣唐使の派遣、平城京の建設、天平文化などに関連するものを読み取っている。 ②奈良時代の日本との共通点や違いに着目し、これまでの学習内容と関連づけながら、当時の日本と中国との結びつきや、日本に影響を与えたものについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③長安の想像図からアジアを中心とした世界と日本との関わりについて関心を高め、これからの学習に生かそうとしている。
第4節 展開する天皇・貴族の政治 ◇節の問い◇ 中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか。			(1)摂関政治のもとでの平安京における貴族の政治の特色を理解できる。 (2)東アジアの情勢の変化によって、日本でも政治と文化において独自の動きがみられるようになったことを理解できる。 (3)日本独自のかな文字が発明され、それを使った文学作品が書かれたことなどに気づき、文化の国風化が進んだことを理解できる。	①摂関政治のもと、平安時代は、藤原氏の皇室との姻戚関係や広大な荘園の所有を背景に政治の実権が天皇から貴族に移行していったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ①かな文字の成立などをもとに、文化の国風化が進んだことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②平安京への遷都や密教の興隆、国風文化の形成に着目して、東アジアの動きが政治や文化に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③律令国家の形成や古代の文化と東アジアとの関わりについて、「章の問い」と関連づけながら「中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。	

1年2学期	21	52 53	タイムトラベル④ 平安時代を眺めてみよう 11～12世紀ごろのある場面	(1)平安時代（平安京）における人々や貴族の生活の様子を描いた想像図を見て、奈良時代と比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、「タイムトラベル」の想像図から、平安時代の街の様子や貴族の生活の様子などを読み取っている。 ②奈良時代と平安時代の違いに着目し、「タイムトラベル」の想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、平安時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「タイムトラベル」の想像図から平安時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。
1年2学期	22	54 55	1 権力を握った貴族たち ◎平安時代に行われていた政治は、どのような特色があったのだろうか。	(1)桓武天皇の政治の特色を理解し、平安京に都を移した理由を考察できる。 (2)摂関政治のしくみを理解し、藤原氏が権力を掌握できた理由を考察し、説明できる。	①桓武天皇の政治の特色と平安京に都を移した理由を理解している。 ①摂関政治のしくみを理解するとともに、地方の治安が乱れていった背景について理解している。 ②本時の学習課題について、藤原氏が権力を握り続けることができた理由に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1年2学期	23 24	56 59	2 唐風から日本風へ変わる文化 ◎平安時代にはどのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 中国の影響を受けた日本の政治と文化は、どのように変化していったのだろうか。	(1)遣唐使の停止により、日本の貴族の生活や好みに合わせた独自の文化が形成されたことを理解できる。 (2)平安仏教の中心が密教から浄土信仰に移っていった理由を、社会の変化から考えることができる。	①平安時代の文化の特色を、国際関係や政治の動きと関連づけて理解している。 ②本時の学習課題について、代表的な文学作品や浄土信仰に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③平安時代の文化の特色について、国際関係や政治の動き、代表的な文学作品や仏教の展開に着目させ、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に気づかせる。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
1年2学期	25	60 62	章の学習を振り返ろう 古代国家の成立と東アジア ■章の問い■ 国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか。	(1)古代の日本で国が成立するために重要なことは何かを考え、その理由とともに発表して意見交換を行うことができる。 (2)古代とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりすることができる。	①「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という「章の問い」について、第2章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「国づくりが行われていった古代の社会には、どのような特色があったのだろうか」という「章の問い」について、人々の役割の移り変わりや「国づくり」と宗教の関係性に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、古代の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第2章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
第3章 中世 武家政権の成長と東アジア ■章の問い■ 武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。			(1)次のような知識を身につけることができる。 (ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流、(イ) 武家政治の展開と東アジアの動き、(ウ) 民衆の成長と新たな文化の形成 (2)次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 (ア) 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の(ア)から(ウ)までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ) 中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	①鎌倉幕府の成立などをもとに、武士が台頭して主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、蒙古襲来（元寇）がユーラシアの変化のなかで起こったことを理解している。 ①南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などをもとに、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解している。 ①農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などをもとに、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 ②武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③中世の日本について、よりよい社会の実現を視野に「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」を主体的に追究しようとしている。	
第1節 武士の世の始まり ◇節の問い◇ なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。			(1)武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解できる。 (2)武家政治の特徴を考察し、天皇や貴族の政治との違いという観点から、古代から中世への転換の様子に気づくことができる。	①鎌倉幕府の成立により、主従の結びつきや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広がるとともに、武士の気風にあった力強い文化が発展したことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②武士の政治への進出と政治の展開、貴族の政治との違いに着目して、武家政権の特徴を事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③武家政権の成立とユーラシアの交流について、「章の問い」と関連づけながら「なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。	
1年2学期	24	63	章の導入 ■章の問い■ 武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)これから学習する中世（鎌倉時代～室町時代・戦国時代）がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、中世に該当する時代を把握し、小学校で学習した歴史上の人物や出来事を想起できている。 ②前の章での学習などをもとに、中世では前の時代からどのように社会が変化するか予想し、表現している。 ③「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」に対する学習の見通しを立て、学習を通して中世の特色を明らかにしようとしている。
1年2学期	26	64 65	タイムトラベル⑤ 鎌倉時代を眺めてみよう 13～14世紀ごろのある場面	(1)鎌倉時代の農村の様子を描いた想像図を見て、平安時代と比べて、どのような点に変化し、どのような共通点があったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、「タイムトラベル」の想像図から、鎌倉時代の農村の様子や、武士の屋敷の特徴などを読み取っている。 ②平安時代と鎌倉時代との違いに着目し、「タイムトラベル」の想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、鎌倉時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「タイムトラベル」の想像図から鎌倉時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。
1年2学期	27	66 67	1 各地で生まれる武士団 ◎武士は、どのようにして登場し、力をつけていったのだろうか。	(1)武士が台頭してきた理由を、土地の所有や権利などをめぐる社会の変化から考察できる。 (2)地方の反乱を鎮めることを通し、武士団が成長し自立していったことを理解できる。	①天皇の子孫である源氏や平氏が、各地の武士団を広くまとめ、武士の統率者（棟梁）となっていったことを理解している。 ②本時の学習課題について、荘園、公領をめぐる争いや都と地方の武士が果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1年2学期	28	68 69	2 朝廷と結びつく武士 ◎平氏は、どのようにして政治の実権を握ったのだろうか。	(1)政治の実権が摂関政治から院政に移行していったことを、武士の台頭との関わりから理解できる。 (2)平清盛が権力を握ることができた理由を考察し、表現できる。 (3)平氏の政治の課題について、武士政権の実現を視野に、主体的に追究することができる。	①院政を経て源氏と平氏が大きな力をもつようになった背景や、平清盛が政治の実権を握るきっかけとなった出来事、平氏政権の経済的な基盤などについて理解している。 ②本時の学習課題について、以前に学んだ藤原氏と今回学ぶ平氏の共通点と相違点に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。

1 年 2 学 期	29 30 70 71	3 鎌倉を中心とした武家政権 ◎鎌倉幕府は、どのようにして武士たちを支配したのだろうか。	(1)鎌倉幕府は、御恩と奉公による主人と家来の主従関係を基盤としていたことを理解できる。 (2)鎌倉幕府の全国支配と執権政治が確立された理由を、承久の乱との関わりから考察できる。	①主従関係のしくみを本文から読み取り、効果的にまとめ、理解している。 ①資料をもとにして、承久の乱の勝利をきっかけに、鎌倉幕府と東国の武士による支配が西国にも及ぶようになったことを理解している。 ②本時の学習課題について、御恩と奉公の関係や執権政治の展開に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1 年 2 学 期	31 72 75	4 武士や僧侶たちが広めた鎌倉文化 ◎鎌倉時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。	(1)鎌倉時代には、武士の気風を反映した力強い文化が生まれたことを理解できる。 (2)鎌倉時代に新しい仏教が生まれてきた理由を、社会との関わりから考察し、表現できる。	①新たな政治の支配者となった武士の気風に合った鎌倉時代の文化の特色を、具体的な文化財とその特徴をもとにして理解している。 ①鎌倉時代の新しい仏教について、開いた人とその教え、どのような人々に受け入れられたかを読み取り、効果的にまとめて、理解している。 ②本時の学習課題について、武士の台頭や当時の社会情勢に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③自然災害に見舞われた中世の人々について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対する関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第2節 武家政権の内と外 ◇節の問い◇ ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。		(1)蒙古襲来(元寇)がユーラシア大陸の変化のなかで起こったことなど、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりがみられたことを理解できる。 (2)南北朝の争乱のなかで室町幕府が成立し、武家社会がしだいに大きな力をもったこと、日明貿易で銅銭が大量にもたらされ、貨幣経済の発達を促したこと、琉球が日本、明や朝鮮、東南アジア諸国との中継貿易を行っていたことを理解できる。	①蒙古襲来が国内に及ぼした影響、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などの知識をもとに、武家政治が東アジア世界と密接な関わりをもちながら展開していったことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②東アジアにおける交流に着目して、モンゴル帝国の拡大や衰退が国内の政治や社会に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③武家政治の展開と東アジアの動きについて、「章の問い」と関連づけながら「ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。	
1 年 2 学 期	32 78 81	1 モンゴル帝国と「蒙古襲来」 ◎モンゴル帝国の拡大は、鎌倉幕府にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)モンゴル帝国の成立が世界や東アジアに与えた影響を、領土の拡大と文化の交流の視点から理解できる。 (2)蒙古襲来が幕府と御家人との関係に与えた影響を、御恩と奉公の主従関係から考察できる。	①蒙古襲来は、モンゴル帝国の領土拡大の一環として行われたことを理解している。 ①2度の蒙古襲来が幕府と御家人に与えた影響を、資料から読み取っている。 ②本時の学習課題について、御家人たちの不満が高まった理由に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。 ③モンゴル帝国によるグローバルな東西交流について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
1 年 2 学 期	33 84 85	2 南北朝の内乱と新たな幕府 ◎武家政権は、鎌倉幕府の崩壊の後、どのように変化したのだろうか。	(1)鎌倉幕府の滅亡から南北朝の動乱、室町幕府の成立までの経緯を理解できる。 (2)鎌倉時代の守護と室町時代の守護大名の違いを、年貢の徴収権と領国支配の違いから考察できる。	①建武の新政が失敗に終わった理由と、その後の南北朝の対立から室町幕府の成立までの経緯を理解している。 ①鎌倉幕府と室町幕府のしくみの違いを読み取ったうえで、室町幕府では管領に有力な守護大名が任命されるようになったことに着目し、武家政治がどのように変化したのかを理解している。 ②本時の学習課題について、室町幕府と守護大名との関係に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1 年 2 学 期	34 86 87	3 東アジアの交易と倭寇 ◎室町幕府は、明や朝鮮とどのように貿易を進めたのだろうか。	(1)室町幕府は明と朝貢形式の交易を行い、日明貿易により大きな利益を得ていたことを理解できる。 (2)日明貿易の特色を理解し、貿易に勘合が用いられた理由を考察できる。	①室町幕府と明・朝鮮の関係について、倭寇の活動やそれぞれとの交易の特色などを通して理解している。 ②本時の学習課題について、朝貢や倭寇に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1 年 2 学 期	35 88 89	4 琉球とアイヌ民族がつなぐ交易 ◎琉球王国やアイヌ民族は、周辺諸国とどのような関係を築いたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。	(1)琉球王国は、地理的な特質を生かした中継貿易を行っていたことを理解できる。 (2)アイヌ民族は、独自の文化を育み、北方の地域や日本と交易していたことを理解できる。	①琉球王国とアイヌ民族の交易の特色を理解するとともに、琉球王国は日本と同じように明への朝貢貿易を行っていたことを理解している。 ②本時の学習課題について、琉球やアイヌ民族と本州の人々との関係に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③擦文文化やアイヌ文化について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第3節 人々の結びつきが強まる社会 ◇節の問い◇ なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。		(1)農業など諸産業の発達や、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみの成立が、当時の社会の大きな変化であることや、それに伴って商品流通が活発化したことを理解できる。 (2)武家政治の展開や民衆の成長を背景とした多様な文化が生まれたことが理解でき、この時代の文化のなかに現代に結びつくものがみられる点に気づくことができる。 (3)各地に戦乱が広まるなかで戦国大名が登場し、みずからの領国を支配して分国法を定めたり、城下町を形成して産業の振興に努めたりしたことや、下剋上の風潮など、社会全体が大きく変化していったことを理解できる。	①農業など諸産業の発達、都市や農村における自治的なしくみの成立、多様な文化の形成、応仁の乱後の社会の変動などをもとに、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②室町時代の農業や商工業の発達に着目して、民衆の成長が社会に与えた影響を、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③民衆の成長と新たな文化の形成について、「章の問い」と関連づけながら「なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。	
1 年 3 学 期	36 90 91	タイムトラベル⑥ 室町時代を眺めてみよう 15世紀ごろのある場面	(1)室町時代の港町の様子を描いた想像図を見て、鎌倉時代と比べて、どのような点が変わり、どのような共通点があるのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題(生徒自身の「単元を貫く問い」)を設定できる。	①小学校での学習などをもとに、「タイムトラベル」に描かれた室町時代の港町の様子を把握し、街の様子や人々の行動などを読み取っている。 ②鎌倉時代と室町時代との違いに着目し、「タイムトラベル」の想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、室町時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「タイムトラベル」の想像図から、室町時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。
1 年 3 学 期	37 92 93	1 技術の発達とさまざまな職業 ◎鎌倉時代から室町時代にかけて、産業と交通はどのように発展していったのだろうか。	(1)鎌倉時代からの農業生産力の向上に伴い、室町時代には手工業が発達してさまざまな職業が登場し、流通の発達が促されたことを理解できる。 (2)経済活動が盛んになり貨幣経済が成長した理由を考察し、表現できる。	①室町時代には、どのような手工業、運送業、金融業などが発達したのか、絵画資料などから適切に読み取り、理解している。 ②農業生産力の高まりが産業や交通に与えた影響に着目し、産業や交通が発展していった理由を考察し、適切に表現している。 ③中世の老人と子ども、女性について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
1 年 3 学 期	38 94 95	2 団結して自立する民衆 ◎人々は、自分たちの目的を成し遂げるために、どのような行動を起こしたのだろうか。	(1)自力救済の社会のなかで、共同体が強固になり、民衆たちが独自の行動を起こすようになったことを理解できる。 (2)村や都市の共同体が、政治権力の干渉を排除するほどに結びつきを強めた理由を考察することができる。	①資料から、民衆の一揆の目的や自治的な組織をつくった理由などを読み取っている。 ②本時の学習課題について、人々のヨコの結びつきや自治の仕組みに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。

1 年 3 学 期	39	96 97	3 全国に広がる下剋上 ◎応仁の乱をきっかけとして、社会はどのように変わっていったのだろうか。	(1)応仁の乱の背景を考察し、戦国大名によって領国支配が確立されていったことを理解できる。 (2)守護大名と戦国大名の違いについて、幕府や領国との関係に着目して考察し、表現できる。	①どのような人が戦国大名となったのか、どのような政策を実施したのか、また、戦国大名がどのように領国を支配していったのかを理解している。 ②本時の学習課題について、戦国大名の動きに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③自然を生かした信玄堤について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる課題に対して関心を高めている。
1 年 3 学 期	40	98 101	4 庶民に広がる室町文化 ◎室町時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。	(1)室町時代には、武家と公家の文化が融合し、日本的な美意識や生活様式をもつ文化が形成され、現代につながっていることを理解できる。 (2)室町時代には、庶民や地方にも京都の文化が広がっていった理由を考察することができる。	①室町時代の文化の特色を、北山文化と東山文化の違いと共通点から理解させ、室町文化の特徴が現代の文化や生活様式などに受け継がれていることを理解している。 ②本時の学習課題について、室町文化とそれまでの文化の違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
1 年 3 学 期	41	102 104	章の学習を振り返ろう 武家政権の成長と東アジア ■章の問い■ 武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)中世までに登場した身分や職業を武士と庶民のまとまりに分けて、人々がそれぞれに結びつきを強めていった目的は何かを考え、説明して話し合うことができる。 (2)中世とはどのような時代か、自分の言葉で表現したり、意見交換を行ったりすることができる。	①「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」について、第3章の学習で獲得した知識を活用して、自分の考えをまとめている。 ②「武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」について、支配者層の移り変わりや人々の持ち物の変化と武士との関係に着目するなどして、多面的・多角的に考察し、中世の特色を適切に表現するとともに、現在とのつながりについて考察している。 ③第3章における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしている。
第4章 近世 武家政権の展開と世界の動き ■章の問い■ 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。			(1)次のような知識を身につけることができる。 (ア)世界の動きと統一事業、(イ)江戸幕府の成立と対外関係、(ウ)産業の発達と町人文化、(エ)幕府の政治の展開 (2)次のような思考力、判断力、表現力などを身につけることができる。 (ア)交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、(1)の(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できる。 (イ)近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できる。	①ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などをもとに、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 ①江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などをもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ①産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどをもとに、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ①社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどをもとに、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 ②交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連づけるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ②近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③近世の日本について、よりよい社会の実現を視野に「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」を主体的に追究しようとしている。	
第1節 大航海によって結びつく世界 ◇節の問い◇ ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。			(1)ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易が盛んになり、それらが日本の社会に影響を及ぼし、近世社会の基礎がつけられたことを理解できる。 (2)新航路開拓の背景となるアジアの交易の状況や、イスラム商人などの役割と世界の結びつきについて理解できる。	①十字軍の遠征を通じたイスラム勢力との交流や、それに伴うローマ教皇の権威の衰えが近代ヨーロッパ世界の形成を促したこと、新航路の開拓とヨーロッパの人々の進出により世界の一体化が始まったことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②ヨーロッパの人々による交易の広がりとその影響に着目して、ヨーロッパ諸国が世界各地に進出するなかで世界の交易の空間的な広がりが生み出され、それを背景として日本とヨーロッパ諸国の接触が起こったことや、日本の政治や文化に与えた影響などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ヨーロッパ人來航の影響とその背景について、「章の問い」と関連づけながら「ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。	
1 年 3 学 期	42	##	章の導入 ■章の問い■ 全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)これから学習する近世(安土桃山時代・江戸時代)がどのような時代であったのか、小学校で学んだ人物・出来事を振り返りながら、周りの生徒との対話を通じて自分なりの予想を立てることができる。	①小学校での学習などをもとに、近世に該当する時代を把握し、小学校で学習した歴史上の人物や出来事を想起できている。 ②前の章での学習などをもとに、近世では前の時代からどのように社会が変化するか予想し、表現している。 ③「全国を統一する政権の誕生によって、社会はどのように変化したのだろうか」という「章の問い」に対する学習の見通しを立て、学習を通して近世の特色を明らかにしようとしている。
1 年 3 学 期	43	106 107	1 ヨーロッパの変革 ◎ヨーロッパの文化や社会は、イスラム商人との交流によってどのように変化したのだろうか。	(1)イスラム文化の影響を受け、近代ヨーロッパ世界が形成されたことを理解できる。 (2)ヨーロッパで、ルネサンスと宗教改革が起こった背景とその影響を考察し、表現できる。	①十字軍の遠征を通じたヨーロッパとイスラム圏の接触により、イスラムの学問や技術などが伝わり、ヨーロッパに変革が起きたことを、さまざまな資料を適切に読み取り、理解している。 ②本時の学習課題について、ヨーロッパでルネサンスや宗教革命が起こった背景を、十字軍の失敗によるローマ教皇の権威の失墜とイスラム文化の伝播との関連から考察し、適切に表現している。 ③中世の価値観の変化がヨーロッパの社会に与えた影響について関心を高めている。
1 年 3 学 期	44	108 111	2 大航海時代の幕開け ◎ヨーロッパの人々の進出によって、世界はどのように変化したのだろうか。	(1)ヨーロッパの人々が、新航路の開拓を行った目的を理解できる。 (2)新航路の開拓により、ヨーロッパの人々が貿易や布教のために世界各地に進出したことで、世界の一体化が始まったことを考察できる。	①コロンブス、バスコ=ダ=ガマ、マゼランが開拓した航路と、新航路の開拓を行った目的を理解している。 ①アメリカ大陸の古代文明の特色と、ヨーロッパの人々が先住民の社会に与えた影響について理解している。 ②本時の学習課題について、キリスト教の布教や貿易、植民地化の進出ルートや広がりについて調べ、新航路の開拓がアフリカやアメリカ、アジアにもたらした影響について資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③ヨーロッパの人々によってアメリカ大陸にもちこまれた伝染病について、そこでみられる課題に対して関心を高めている。

1 年 3 学 期	45	11 2 11 3	3 東アジアの貿易と南蛮人 ◎ヨーロッパの国々による世界進出によって、日本の生活や文化はどのような影響を受けたのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ ヨーロッパの国々による世界進出は、各地の生活や文化にどのような影響を与えたのだろうか。	(1)南蛮貿易の特色を理解し、鉄砲の伝来が日本の社会に与えた影響を理解できる。 (2)日本にキリスト教が伝わった背景と、国内にキリスト教が広まった理由を考察できる。	①南蛮貿易の主な貿易品や日本に与えた影響と、ヨーロッパ船の来航地や来航目的を理解している。 ②本時の学習課題について、南蛮人の来航による鉄砲やキリスト教の伝来に着目し、資料を活用しながら考察し適切に表現している。
第2節 戦乱から全国統一へ ◇節の問い◇ 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。			(1)織田信長が行った仏教勢力への圧迫や関所の撤廃、豊臣秀吉が行った検地・刀狩などの政策によって、中世の大きな勢力が力を失ったことや、中世までとは異なる社会が生まれていったことなどの大きな変化に気づくことができる。 (2)南蛮文化が取り入れられる一方、生活に根ざした文化が広がり、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪華絢爛な文化が生み出されたことを理解できる。	①信長・秀吉による統一事業とその当時の対外関係、戦国大名や豪商などの生活・文化の特色などの知識をもとに、中世社会の荘園制の崩壊と仏教勢力の衰退により、近世社会の基礎がつけられたことを理解し、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目して、中世社会から近世社会への変化が生み出され、日本の政治や文化に与えた影響などを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③信長・秀吉による統一事業や桃山文化について、「章の問い」と関連づけながら「全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。	
1 年 3 学 期	46	11 4 11 5	タイムトラベル⑦ 安土桃山時代を眺めてみよう 16世紀ごろのある場面	(1)安土桃山時代のまちづくりが行われている様子を描いた想像図を見て、室町時代と比べて、どのような点が変わったのかを読み取り、疑問があれば追究すべき課題（生徒自身の「単元を貫く問い」）を設定できる。	①小学校の学習を踏まえて、「タイムトラベル」の想像図から、安土桃山時代の築城の様子や、検地、刀狩の様子などを読み取っている。 ②室町時代と安土桃山時代の違いに着目し、「タイムトラベル」の想像図に描かれている事象を相互に関連づけるなどして、時代の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③「タイムトラベル」の想像図から、安土桃山時代の特色を明らかにするための課題を見だし、「問い」を立てて主体的に追究しようとしている。
1 年 3 学 期	47	11 6 11 7	1 信長・秀吉による全国統一 ◎戦国大名は、どのようにして全国統一を進めたのだろうか。	(1)信長・秀吉の統一事業により、中世社会の勢力が力を失い、近世社会の到来が促されたことを理解できる。 (2)信長の諸政策の特色を理解し、それぞれの政策のねらいを考察できる。	①戦国時代はどのようにして終わったのか、織田信長と豊臣秀吉が全国統一を果たしていった経緯をもとに理解している。 ②本時の学習課題について、主に信長の政策に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1 年 3 学 期	48	11 8 11 9	2 秀吉が導いた近世社会 ◎秀吉は、国内と海外に対してどのような政策を行ったのだろうか。	(1)秀吉の諸政策が中世的な土地制度を解体し、検地に基づく直接的な土地支配を確立したことを理解できる。 (2)秀吉の対外政策の特色を、海外貿易の許容とキリスト教の禁止との矛盾、文禄・慶長の役の失敗から考察できる。	①検地と刀狩によって中世までとは異なる社会がつけられたことを、兵農分離に着目して理解している。 ①文禄・慶長の役が豊臣氏の支配が弱まる原因になったことを理解している。 ②本時の学習課題について、検地や刀狩、文禄・慶長の役に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1 年 3 学 期	49	12 0 12 3	3 戦国大名と豪商が担った桃山文化 ◎安土桃山時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。	(1)戦国大名や豪商の経済力を背景に、戦国時代末期から安土桃山時代にかけて、豪壮な文化が生まれたことを理解できる。 (2)南蛮貿易によって西洋の文化がもたらされるとともに、庶民の間にも芸能や娯楽が広まっていったことを理解できる。	①桃山文化の特色を、戦国大名や豪商の豊かな経済力と南蛮貿易の影響に着目して理解している。 ②本時の学習課題について、中世の文化と桃山文化との違いに着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③よりよい社会の実現を視野に、築城による森林伐採や朝鮮半島から伝わった文化について、そこで見られる課題に対して関心を高めている。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。
第3節 武士による全国支配の完成 ◇節の問い◇ 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。			(1)江戸幕府の支配の下、大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換の様子を、中世の武家政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できる。 (2)江戸幕府の成立と幕藩体制について、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことで、全国の土地と人々を支配するしくみが確立していったことを理解できる。	①江戸幕府の成立と大名統制や、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係をもとに、幕府と藩による支配が確立したことを理解しているとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を効果的に調べ、まとめている。 ②統一政権の諸政策の目的に着目し、江戸幕府によって全国を支配するしくみがつけられ、安定した社会が構築されたことなどを、事象を相互に関連づけるなどして、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③江戸幕府の成立と対外関係について、「章の問い」と関連づけながら「江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか」という「節の問い」を主体的に追究しようとしている。	
1 年 3 学 期	50	12 4 12 5	1 幕藩体制の始まり ◎江戸幕府は大名や朝廷を統制するために、どのようなしくみをつくったのだろうか。	(1)江戸幕府が開かれた経緯と幕藩体制のしくみや大名・朝廷の統制のしくみを理解し、それらをつくった徳川氏の共通のねらいについて多面的に考察できる。 (2)幕府が、大名や朝廷を統制するためにどのような制度や法令を整備したか理解できる。	①大名の配置、武家諸法度の制定、参勤交代の制度のそれぞれのねらいを理解している。 ②本時の学習課題について、幕府の軍事力や経済力に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1 年 3 学 期	51	12 6 12 7	2 朱印船貿易から貿易統制へ ◎幕府は、盛んになっていた貿易やキリスト教の布教に、どのように対処していったのだろうか。	(1)幕府は、当初、大名や豪商などに朱印状を与えて積極的に貿易を進めていたことを理解できる。 (2)幕府の政策が、貿易の推進から統制に変化した理由を、キリスト教との関わりから考察できる。	①キリスト教と貿易への対応について、信長・秀吉・家康の違いを効果的にまとめさせ、貿易の統制と禁教に移行していったことを理解している。 ②本時の学習課題について、貿易とキリスト教徒との関係に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。
1 年 3 学 期	52	12 8 12 9	3 四つに絞られた貿易の窓口 ◎幕府は、貿易についてどこを窓口とし、どのように関わっていったのだろうか。	(1)幕府は、長崎、対馬、薩摩、松前の四つの窓口を通して、外国との交易を行っていたことを理解できる。 (2)幕府が世界とつながる窓口を限定した理由を考察し、表現できる。	①貿易の四つの窓口が、それぞれ、オランダと清、朝鮮、琉球、蝦夷地への窓口となり、貿易を行っていたことを理解している。 ②本時の学習課題について、四つの窓口が果たした役割に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③よりよい社会の実現を視野に、日本と朝鮮をつないだ倭館について、関心を高めている。
1 年 3 学 期	53	13 0 13 1	4 琉球王国とアイヌ民族への支配 ◎琉球王国とアイヌ民族は、薩摩藩や松前藩とどのような関係にあったのだろうか。 ◇節の問いを振り返ろう◇ 江戸幕府はどのようにして全国を支配したのだろうか。	(1)琉球王国は薩摩藩の支配を受けながら、一方で中国に朝貢し貿易を行っていたことを理解できる。 (2)アイヌ民族が松前藩と対立した理由を考察し、表現できる。	①琉球王国と薩摩藩、アイヌ民族と松前藩の交易の特色を理解している。 ②本時の学習課題について、中国との関係や琉球王国、アイヌ民族との交易に着目し、資料を活用しながら考察し、適切に表現している。 ③「節の問い」について振り返り、学習の方法や留意点について確認、調整しようとしている。